

検査項目でわかること

◆基本的な項目

	検査項目	この検査でわかること
身体計測	BMI	BMIは、「体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)」で算出します。体格がわかります。
	収縮期血圧 拡張期血圧	心臓が収縮して血液を送り出すとき、圧力が最高(収縮期血圧)となり、心臓が元に戻るとき最低(拡張期血圧)となります。血圧が高い状態が続くと、血管に負担をかけ、血管を傷めることとなります。傷ついた血管には、脂質などが溜まりやすくなり、動脈硬化が進みやすくなります。
血液検査	中性脂肪	中性脂肪やLDL(悪玉)コレステロールの値が高いと脂質が血管の中に溜まって動脈硬化を進めます。脂質が血管をふさいで血流が遮断されると、心筋梗塞や脳梗塞を引き起こします。HDL(善玉)コレステロールは、血管に溜まった余分な脂質を取り除く働きをしています。
	HDL コレステロール	
	LDL コレステロール	
	GOT	肝臓の働きを知るための検査です。
	GPT	
	γ-GTP	
	空腹時血糖	糖尿病の発見の手がかりになります。インスリン不足やインスリンの働きが悪くなると、血糖値が高くなります。
	ヘモグロビン A1c	糖尿病の発見の手がかりになります。過去1～2か月の平均的な血糖の状況がわかります。
尿酸	痛風や腎臓病で数値が高くなります。	
血清クレアチニン及び eGFR	腎臓の働きを知るための検査です。	
尿検査	糖	糖尿病の発見の手がかりになります。
	蛋白	尿の中のたんぱくを調べる検査です。尿の中に通常、たんぱくは現れないので、陽性(+)以上の場合は、再検査や精密検査を受け、原因を調べる必要があります。
	潜血	腎臓や尿路に炎症や疾患があると陽性になります。

◆詳細な項目(医師が必要と判断したときに実施します)

貧血検査	赤血球数、血色素量、ヘマクリット値を調べる検査です。数値が低いと貧血が疑われます。
心電図	心臓病の発見の手がかりになります。
眼底検査	眼底の網膜や血管の状態を調べる検査です。目の病気(白内障や緑内障)だけではなく、高血圧や動脈硬化、糖尿病性網膜症などの病気を発見する手がかりになります。
血清クレアチニン検査	腎臓の働きを知るための検査です。